

# 支え合いのまち千葉 推進計画 ～第5期千葉市地域福祉計画～

(中間見直し版)

計画期間 令和4(2022)～8(2026)年度



令和6(2024)年3月

千葉市

## 目次

### 第1章 中間見直しにあたって

1 見直しの趣旨 .....	1
2 新型コロナウイルス感染症の影響 .....	1
3 地域の実践 .....	1
4 市の取組み .....	2

### 第2章 地域福祉を取り巻く状況

1 各種統計データ .....	3
2 これまでの取組みと今後の課題 .....	17

### 第3章 支え合いのまち千葉 推進計画（第5期千葉市地域福祉計画）について

計画中間見直しの経過 .....	21
------------------	----

### 第4章 地域の実践（住民同士の支え合い）

区支え合いのまち推進計画のポイント .....	22
● 中央区支え合いのまち推進計画 .....	23
● 花見川区支え合いのまち推進計画 .....	
● 稲毛区支え合いのまち推進計画 .....	
● 若葉区支え合いのまち推進計画 .....	
● 緑区支え合いのまち推進計画 .....	
● 美浜区支え合いのまち推進計画 .....	

### 第5章 市の取組み（地域福祉の基盤整備のために市が行う取組み）

取組方針、施策の方向、主要施策、具体的な取組み .....	24
-------------------------------	----

## **第6章 成年後見制度利用促進基本計画**

- 1 成年後見制度を必要とする人を取り巻く状況と課題 ..... 26
- 2 施策の展開 ..... 35

## **資料編**

- 資料編目次 ..... 36
- 地域福祉啓発デジタル漫画「支え合う繋がり合うって素敵だね」 ..... 36



## 第1章 中間見直しにあたって

### 1 見直しの趣旨 (計画 p.1)

支え合いのまち千葉 推進計画（第5期千葉市地域福祉計画）は、社会福祉法第107条の規定による「市町村地域福祉計画」と成年後見制度の利用の促進に関する法律第14条の規定による「市町村成年後見制度利用促進基本計画」と一体的なものとして、当初は第4期計画の期間の満了に合わせ令和3年度から開始する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により1年延期し、令和4年3月に策定しました。

本計画は、令和4（2022）年度から令和8（2026）年度までの5年間としており、新型コロナウイルス感染症の収束の状況を注視しつつ、中間見直し等を行うこととしております。

令和6（2024）年度が中間年度に当たり、令和5（2023）年5月8日に新型コロナウイルス感染症が感染症法上「5類感染症」に変更されたことから、計画の見直しを行うものです。

### 2 新型コロナウイルス感染症の影響 (計画 p.2)

令和2（2020）年1月に国内で初めて新型コロナウイルス感染症による肺炎患者が確認されて以来、3年間に8回の感染拡大と縮小を繰り返し、社会経済活動や市民生活の行動変化等に大きな影響を与えました。

経済活動の停滞や外出機会の減少に伴い、高齢者のフレイル（虚弱）・認知症の進行、障害者や子どもたちの生活へのマイナスの影響、生活困窮、児童虐待、DV、自殺、家族介護者の負担増、子ども・若者を含めた社会的孤立・孤独の進行・増加や支援を必要とする方々の生活実態やニーズの把握困難など、様々な課題が発生しています。

このような状況から回復するため、基本的な感染対策を継続しつつ、住民同士の支え合いが再生し、又は継続し発展するよう、柔軟で多様な方向に変革していく視点を持つことが必要です。

### 3 地域の取組み (計画 p.3)

地域においては、新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な地域活動について休止、中止や活動規模の縮小をせざるを得ませんでした。人と人とのつながる力や活動の担い手のモチベーションの低下、活動の断絶や担い手不足の深刻化など、「住民が集い、支え合う」という地域福祉の根幹を大きく揺るがす影響があったことから、それぞれの地域の実情に合わせた住民同士の支え合いの仕組みの再生を推進していきます。

#### 4 市の取組み (計画 p.4)

市においては、コミュニティソーシャルワーク機能をさらに強化し、その機能が地域に根付くことに主眼を置きつつ、「地域の支え合いの力を高める」施策として、新型コロナウイルス感染症禍の影響を受けた地域福祉活動の再開・継続への支援、「ひとりぼっちにしない、断らない相談支援体制を構築する」施策として、重層的・包括的相談支援体制の構築を段階的に進めていくとともに、地域住民等が、自ら他の地域住民が抱える個々の生活課題に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行い、必要に応じて支援関係機関とスムーズに連携・協力できる体制づくりや、市内の様々な相談支援機関間のコーディネートを推進します。

また、オンラインの活用支援、行政が一体となって地域づくりの担い手・リーダーの育成、地域福祉活動の拠点確保、新たなプラットフォームの形成、居場所（通いの場）や生活支援サービスの拡充などを推進します。



11月分科会に向けてさらに加筆修正予定

# 第2章 地域福祉を取り巻く状況

## 1 各種統計データ

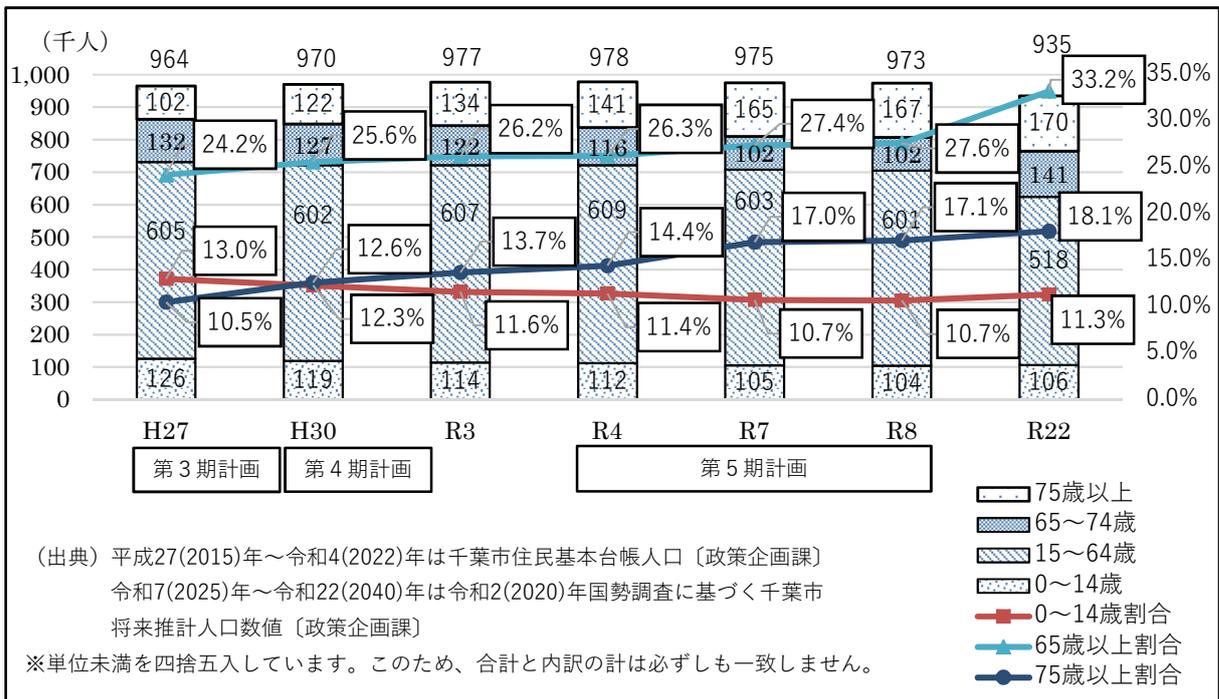
### (1) 少子高齢化に関するデータ (計画 p.8~9)

#### ① 総人口と高齢者及びこどもの数の推移

本市の総人口は、令和4(2022)年9月末現在977,823人(住民基本台帳人口)となっています。そのうち65歳以上の高齢者人口は256,789人で全体の26.3%、75歳以上の後期高齢者人口は141,102人で全体の14.4%、15歳未満の年少人口は111,562人で全体の11.4%を占めています。

将来推計によると、高齢者人口は、団塊の世代が全て75歳以上となる令和7(2025)年には、65歳以上の高齢者人口は267,000人、高齢化率は27.4%まで上昇し、団塊ジュニア世代が全て65歳以上となる令和22(2040)年には、65歳以上の高齢者人口は310,500人、高齢化率は33.2%まで上昇する見込みとなっています。年少人口及びその構成割合は、今後も低い水準で推移していく見込みとなっています。

【千葉市の人口(高齢者・年少者)の推移】



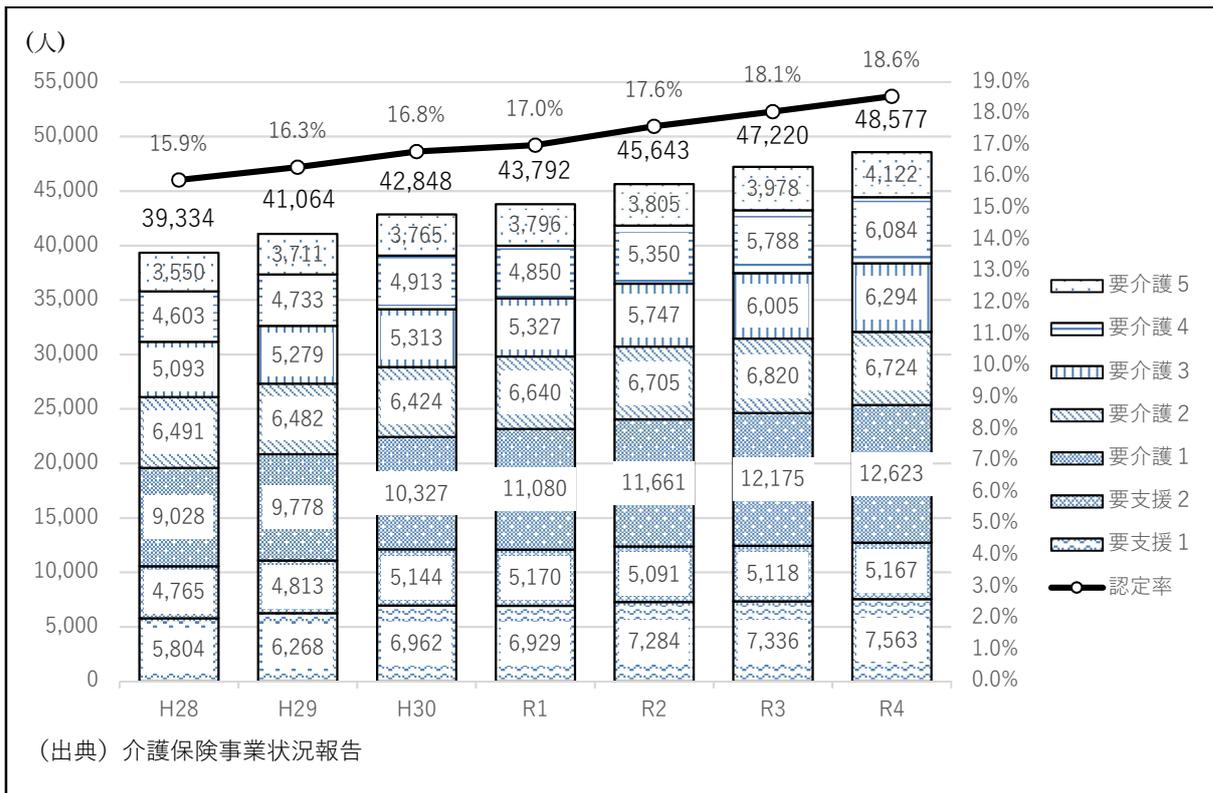
(2) 要支援者に関するデータ (計画 p.10~14)

① 要支援・要介護認定者の状況

本市の要支援・要介護認定者数及び認定率（第1号被保険者に対する認定者数の割合）は、高齢者の増加に伴い、増加傾向にあります。

令和4（2022）年度現在の認定者数は、48,577人で、認定率は18.6%となっています。要介護度別にみると、要介護1が最も多く認定者の約4人に1人です。これに要支援1・2を合わせた軽度者は認定者の約半数を占めています。

【千葉市の要支援・要介護認定者数、認定率の推移】（各年度3月末時点）

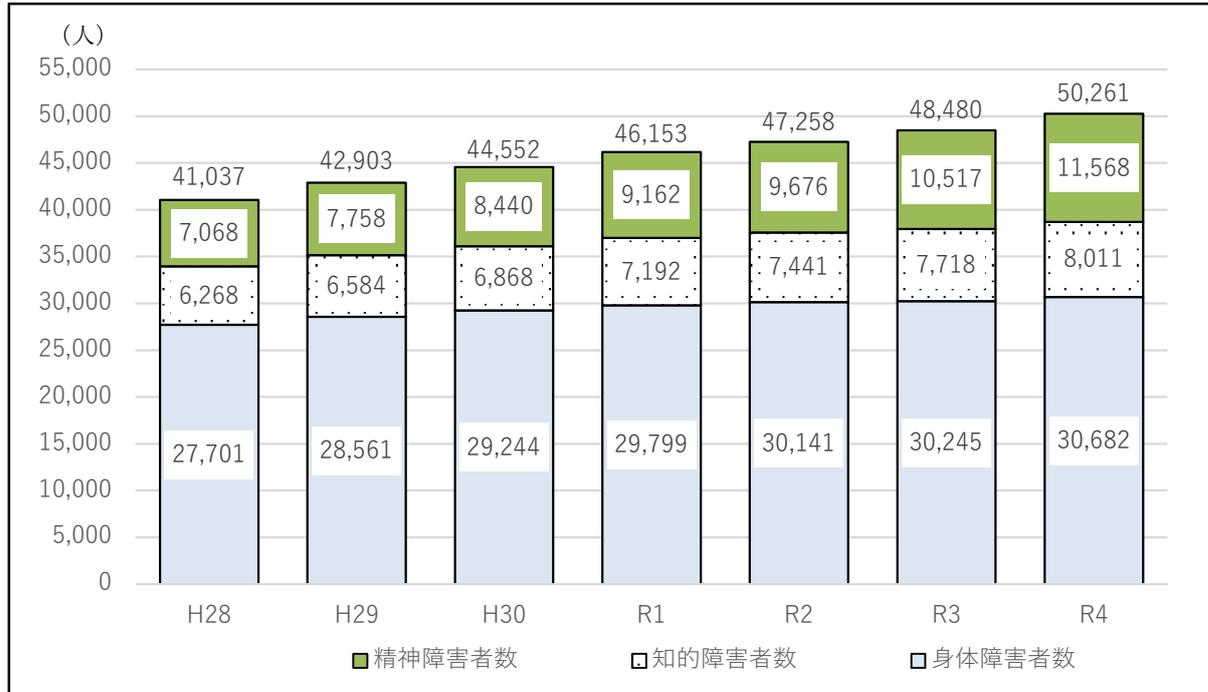


③ 障害者の状況

本市の障害者手帳所持者数は、令和4(2022)年度末現在、合計50,261人です。内訳は身体障害者30,682人、知的障害者8,011人、精神障害者11,568人となっています。

障害者手帳所持者数は、増加傾向にあり、中でも精神障害者数の増加が大きく、5年間で約1.4倍となっています。

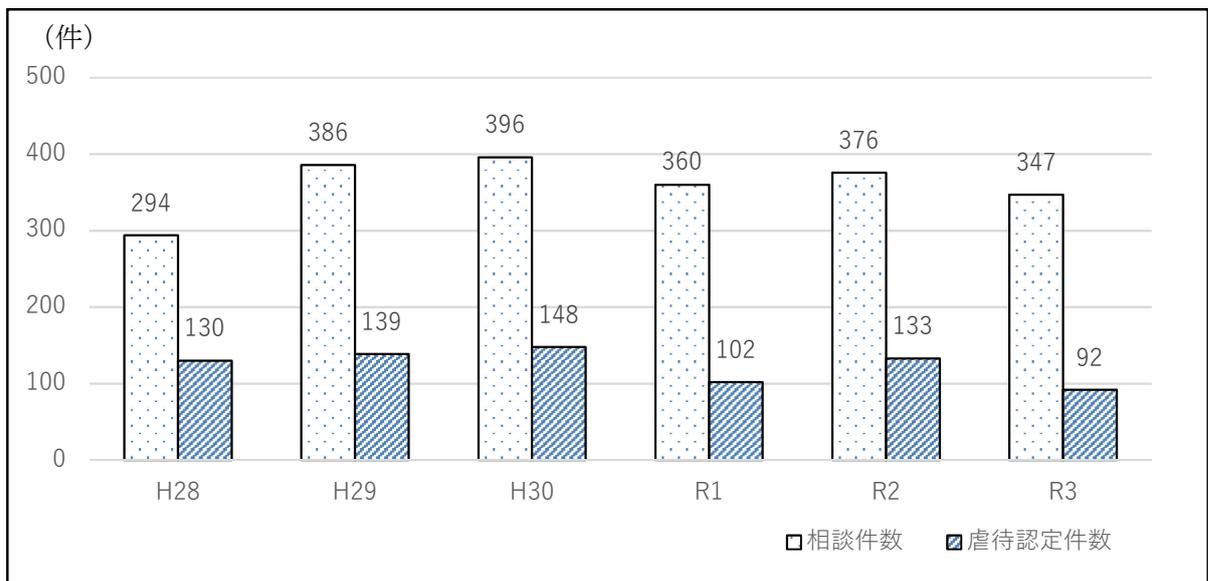
【千葉市の障害者手帳所持者数の推移】(各年度3月末時点)



④ 高齢者虐待の状況

令和3(2021)年度の本市の在宅における高齢者虐待の相談件数は、347件、虐待認定件数は、92件となっており、近年は横ばいの状態です。

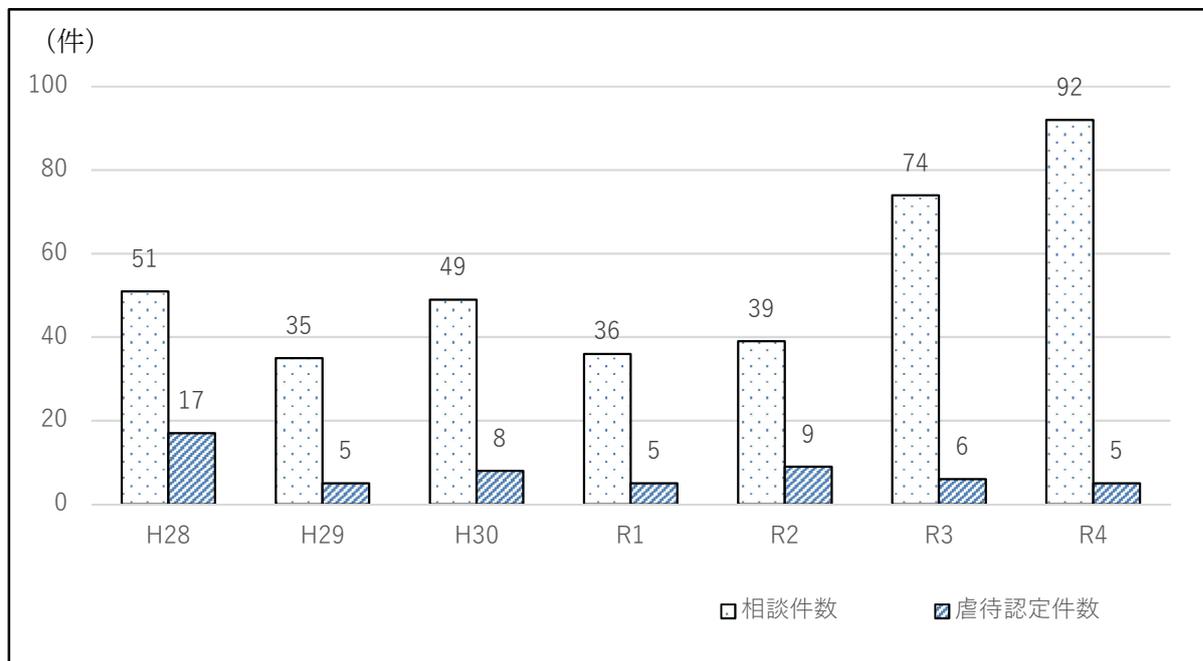
【千葉市の在宅における高齢者虐待の相談件数及び認定件数の推移】(年度別実績)



⑤ 障害者虐待の状況

令和4（2022）年度の本市の障害者虐待の相談件数は92件と急増していますが、虐待認定件数は5件とほぼ横ばいの状態です。

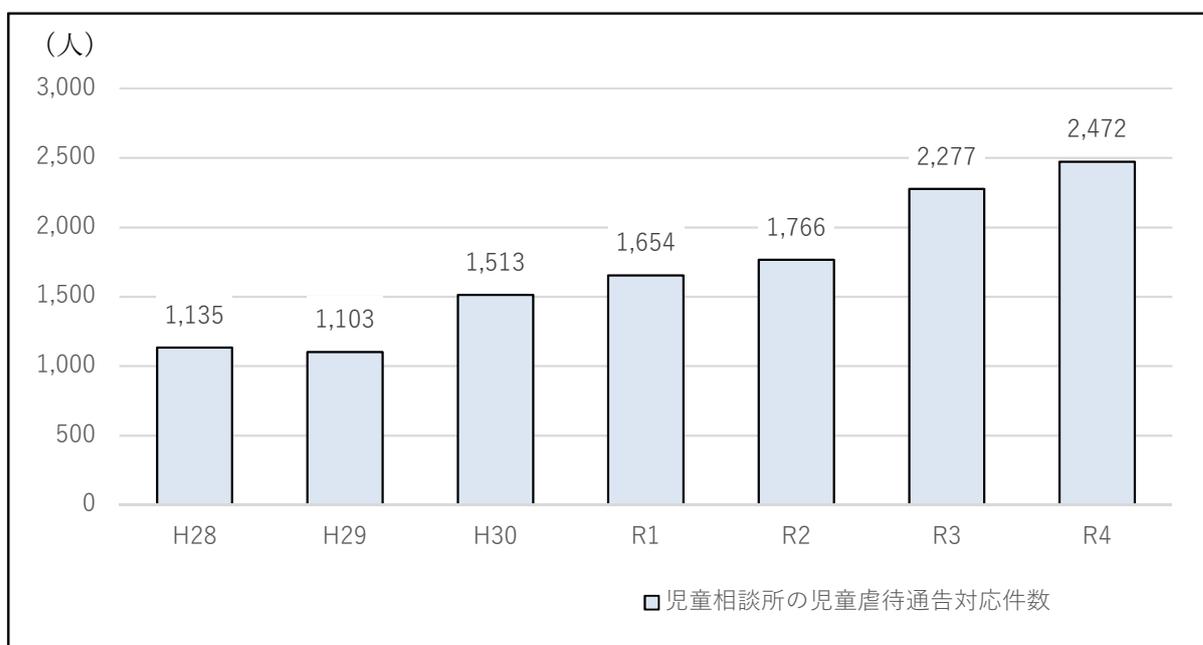
【千葉市の障害者虐待の相談件数及び認定件数の推移】（年度別実績）



⑥ 児童虐待の状況

令和4（2022）年度の本市の児童相談所の児童虐待通告対応件数は、2,472件となり、増加傾向にあります。

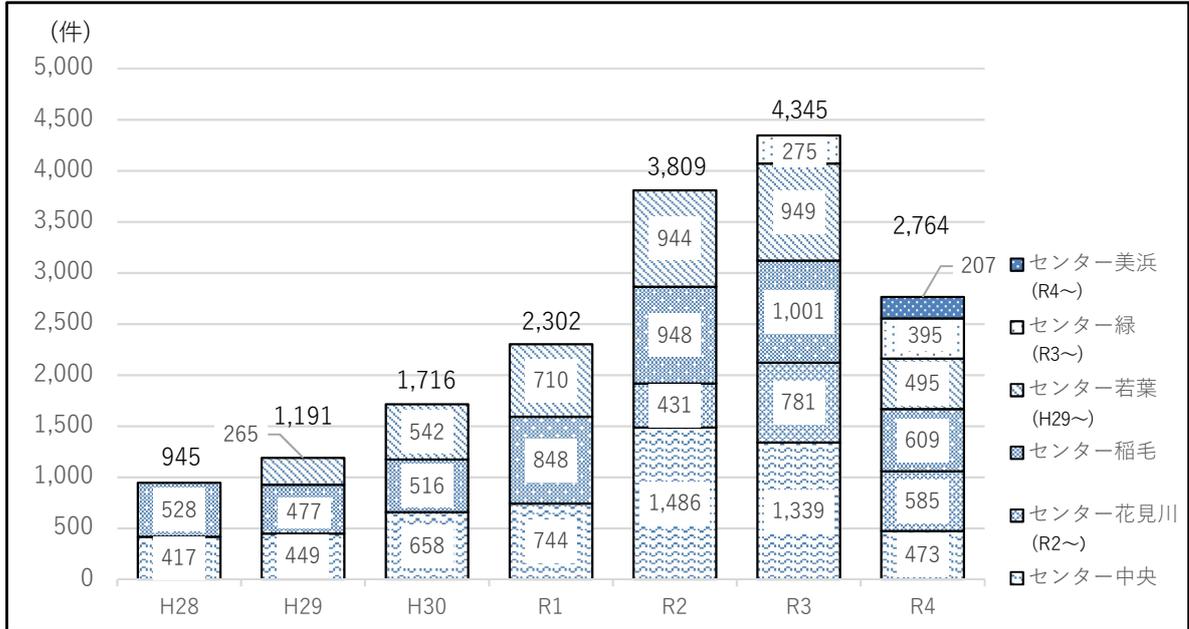
【千葉市の児童相談所の児童虐待通告対応件数の推移】（年度別実績）



⑦ 生活困窮者の状況

本市の生活困窮者の相談支援窓口である生活自立・仕事相談センターの新規相談受付件数は毎年増加傾向にありましたが、令和4（2022）年度は2,764件で、令和3（2021）年度の4,345件から初めて減少しました。

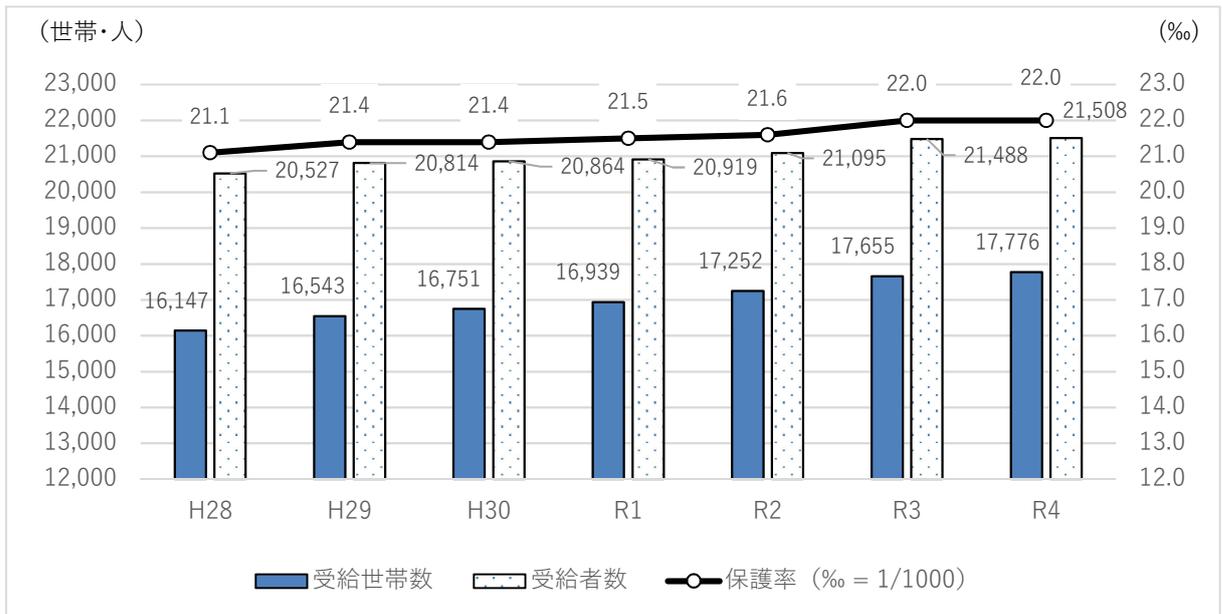
【千葉市の生活自立・仕事相談センターの新規相談受付件数の推移】（年度別実績）



⑧ 生活保護の状況

令和4（2022）年度現在（月平均）、本市の生活保護受給者数は21,508人、受給世帯数は17,776世帯、保護率（市人口に対する生活保護受給者数の割合）は22.0%（% = 1/1000）となっており、微増傾向にあります。

【千葉市の生活保護受給者数・受給世帯数・保護率の推移】（年度ごとの月平均値）



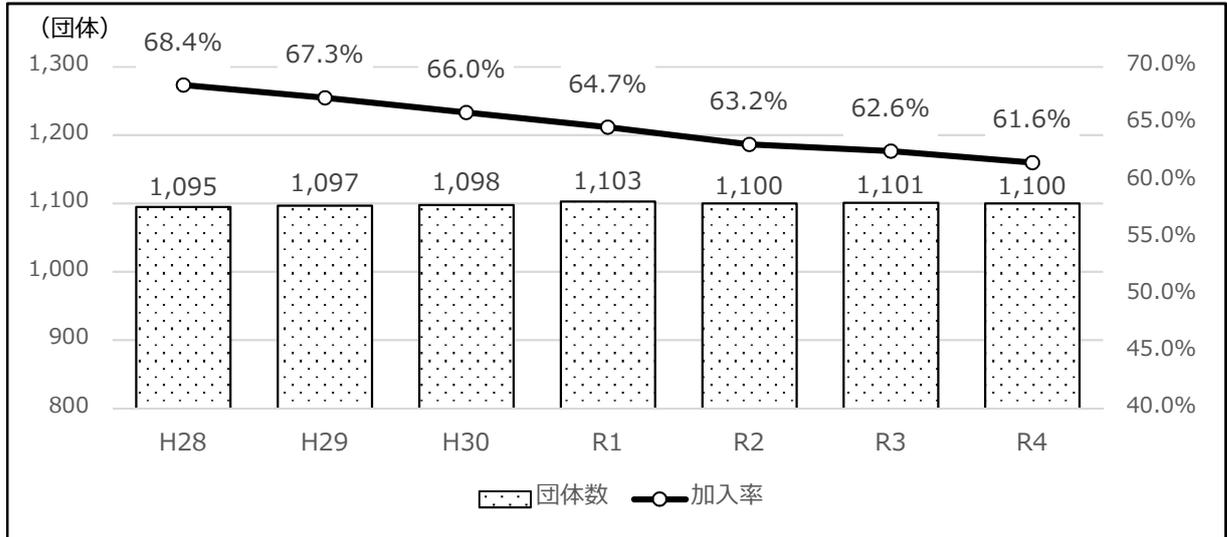
(3) 地域福祉を支える活動者に関するデータ (計画 p.15~17)

① 町内自治会の団体数と加入率の推移

令和4(2022)年度末現在、市内の町内自治会の団体数は1,100団体で、加入率(市世帯数に対する加入世帯数)は61.6%となっています。

近年、町内自治会の加入率は減少傾向にあります。

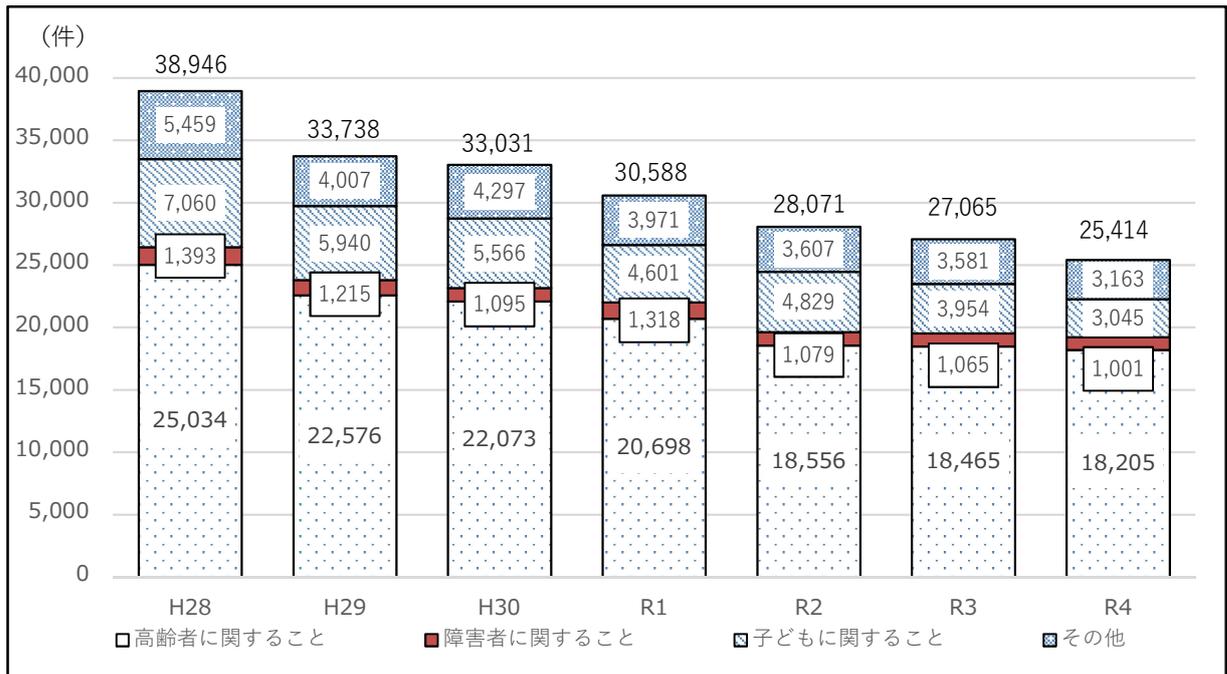
【千葉市の町内自治会団体数と加入率の推移】(各年度3月末時点)



② 民生委員・児童委員の活動状況

民生委員・児童委員は、要支援者の抱える困りごとが多様化するなかで地域において日々様々な活動を行っています。本市における民生委員・児童委員の分野別相談・支援件数は、近年は横ばいでしたが、令和元年度以降減少しています。

【千葉市の民生委員・児童委員の分野別相談・支援件数の推移】(年度別実績)



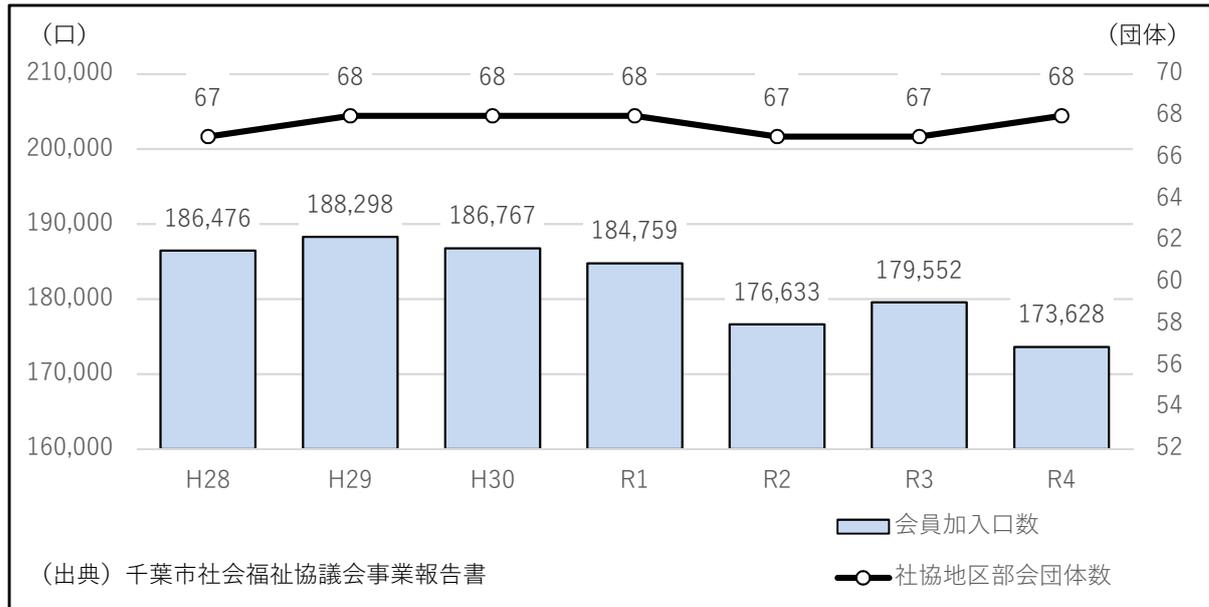
③ 千葉市社会福祉協議会の会員加入口数と社協地区部会の団体数の推移

市社協の会員加入口数は、近年は減少傾向にあり、特に令和2（2020）年度に大きく減少しました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられます。

令和3（2021）年度にはやや回復したものの、令和4（2022）年度には再度減少し、173,628口となっています。

また、社協地区部会の団体数は、令和4（2022）年4月現在68団体で、市内のおおよその地域で結成されている状況です。

【千葉市社会福祉協議会の会員加入口数と社協地区部会の団体数の推移】（各年度3月末時点）

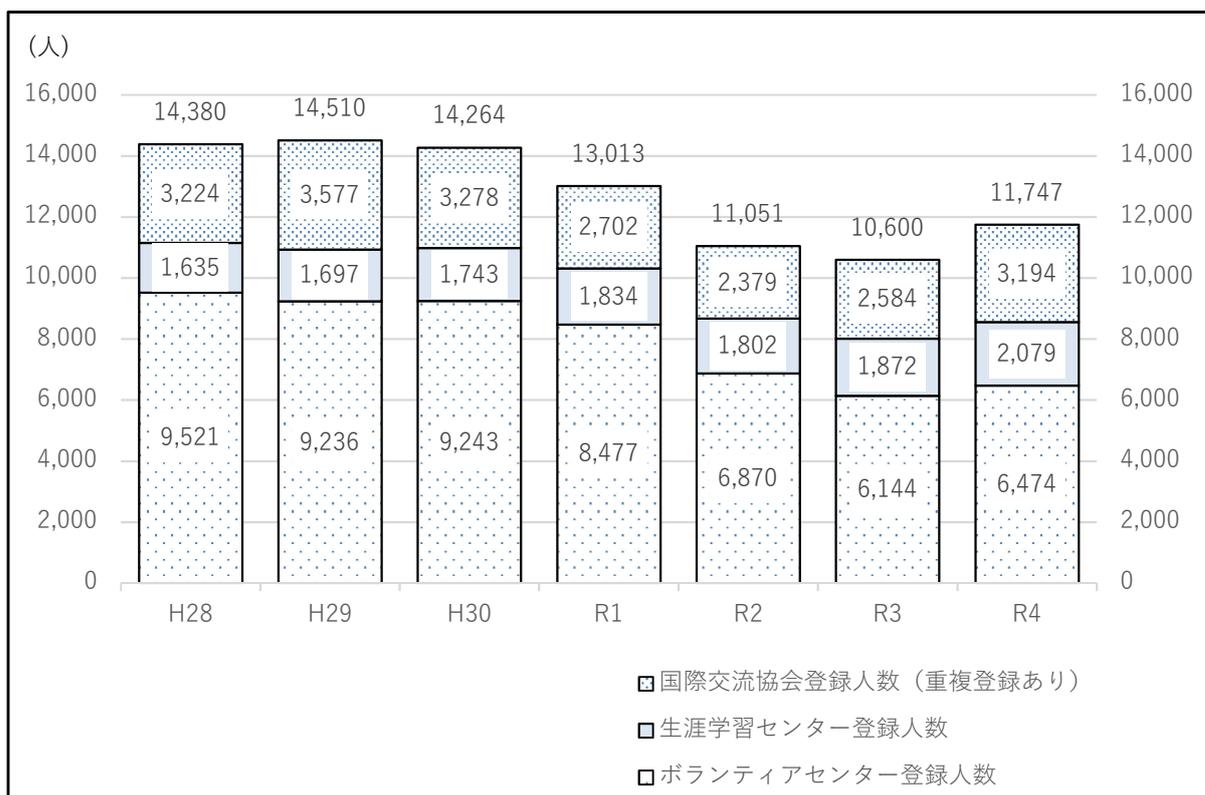


④ ボランティアの登録者数

令和4（2022）年度末現在、千葉市ボランティアセンターのボランティア登録者数は6,474人、千葉市生涯学習センターのボランティア登録者数は2,079人、千葉市国際交流協会のボランティア登録者数（重複登録あり）は3,194人となっています。

ボランティア登録者数全体としては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和3（2021）年度まで減少傾向にありましたが、令和4（2022）年度はやや回復しています。

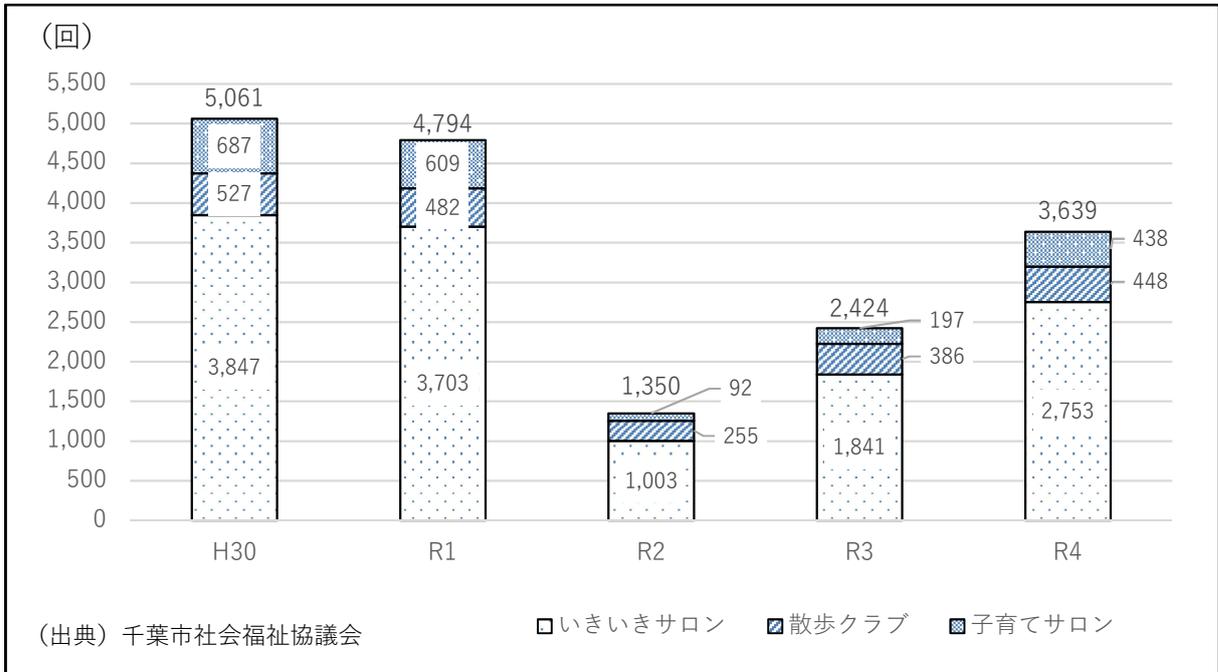
【ボランティアの登録者数の推移】（各年度3月末時点）



⑤ コロナ禍の社協地区部会活動の状況

令和4（2022）年度の社協地区部会が実施するサロン活動及び散歩クラブの実施回数は、「いきいきサロン」が2,753回、「子育てサロン」が438回、「散歩クラブ」が448回となっており、令和2（2020）年度に新型コロナウイルス感染症の影響を受け大幅に減少したものの、回復傾向にあります。

【千葉市社会福祉協議会地区部会のいきいきサロン・子育てサロン・散歩クラブの実施回数の推移】



(4) 市民意識に関するデータ (計画 p.18~21)

(出典) 令和5(2023)年度千葉県WEBアンケート (R5.4.1~4.10に市ホームページ上で実施)  
 令和3(2021)年度千葉県WEBアンケート (R3.4.30~5.10に市ホームページ上で実施)

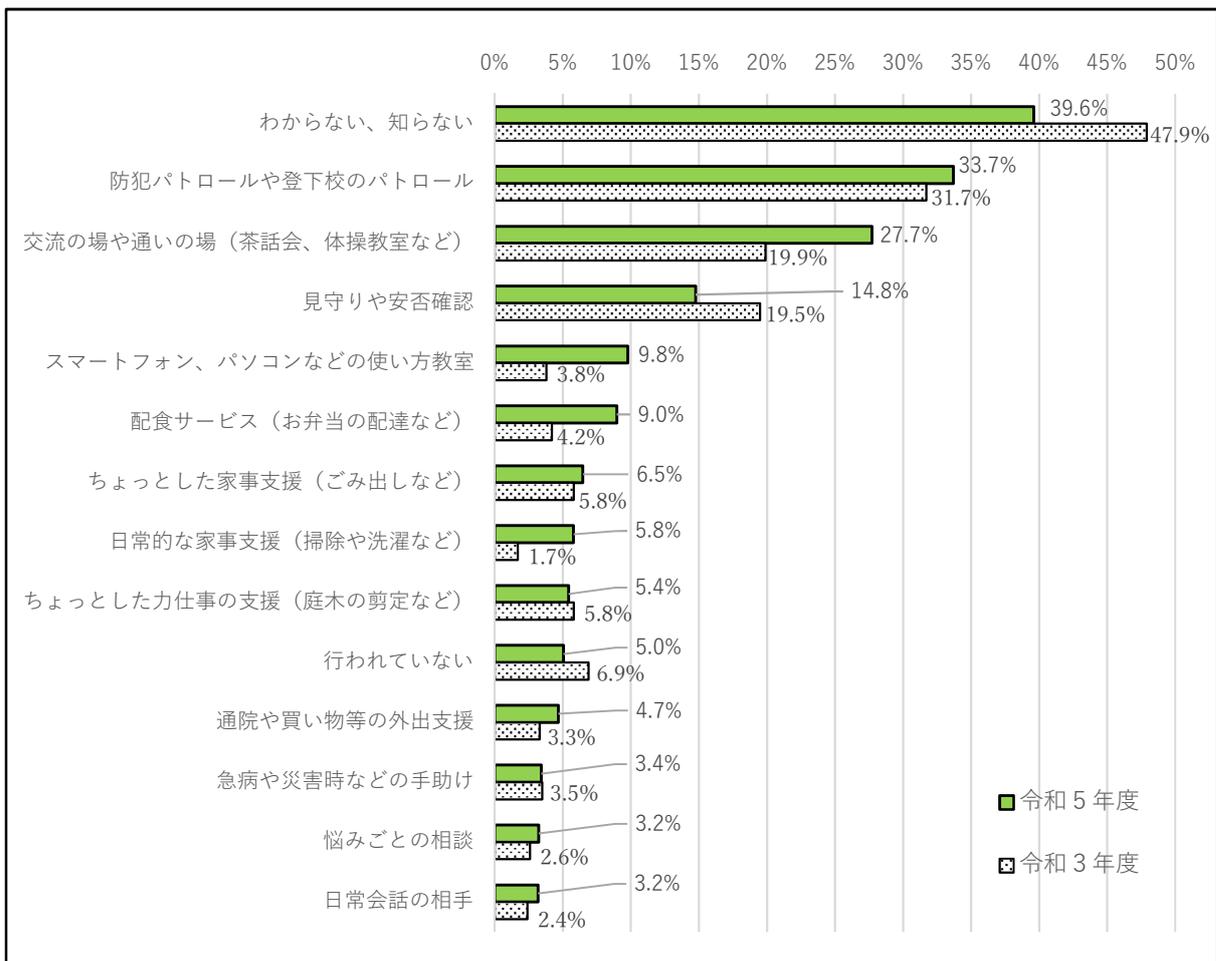
① 地域福祉活動の認知状況

地域でどのような活動が行われているか「わからない」と答えた人が最も多く、割合は39.6%でした。令和3年度(47.9%)と比較すると8.3ポイント減少しており、地域福祉活動の認知状況は向上しているといえます。

活動ごとの認知度では、令和3年度と比率は異なるものの順位は変わらず、「防犯パトロールや登下校のパトロール」が最も高く33.7%(R3:31.7%)、次いで「交流の場や通いの場」が27.7%(R3:19.9%)、「見守りや安否確認」が14.8%(R3:19.5%)となっています。

その他、「スマートフォン、パソコンなどの使い方教室」(3.8%⇒9.8%)「配食サービス(お弁当の配達など)」(4.2%⇒9.0%)が大きく伸びています。新型コロナウイルス感染症の影響により在宅の機会が増えたことで、これらの活動への関心が高まったことが原因と思われます。

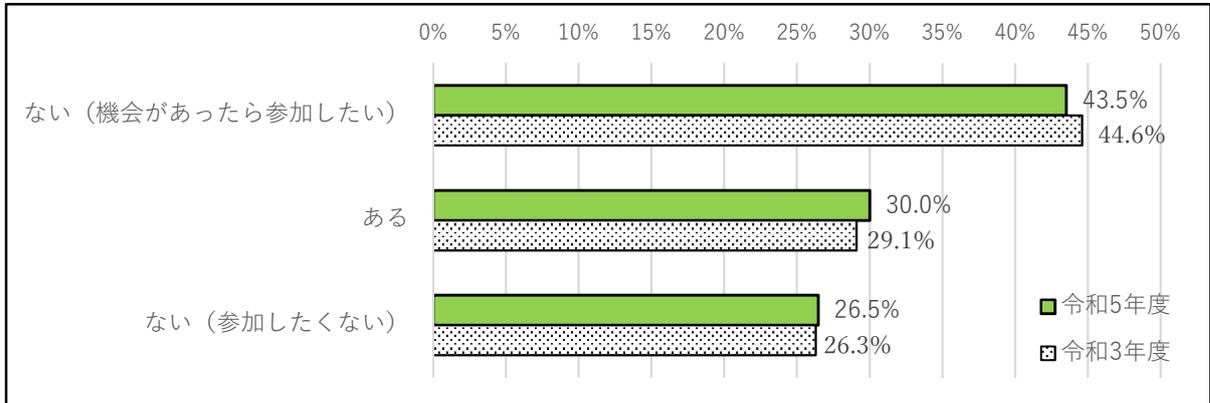
(設問) お住まいの地域では、どのような地域福祉活動が行われていますか(複数回答可)。



② 地域福祉活動の参加状況

地域福祉活動に参加したことが「ある」と「機会があったら参加したい」を合わせると全体の約7割で、令和3年度と比較してほとんど変化がありませんでした。

(設問) これまでに、地域福祉活動に参加したことがありますか(1つだけ選択)。

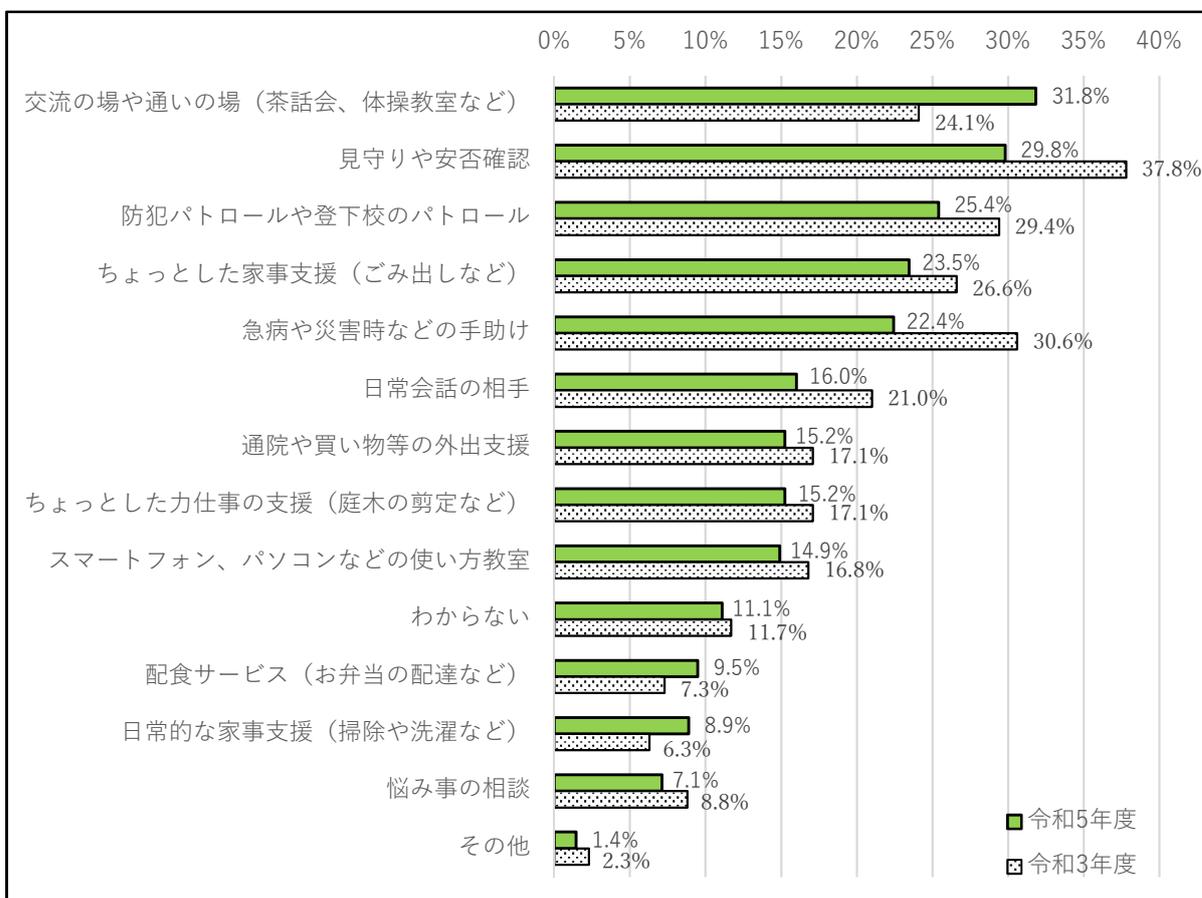


③ 参加したい地域福祉活動

参加したい地域福祉活動は、「交流の場や通いの場」と答えた人が最も多く、割合は31.8%でした。令和3年度（24.1%）と比較すると7.7ポイントの増加となり、新型コロナウイルス感染症対策の行動制限緩和の方向性が国から示されたことに伴い、対面のコミュニケーション活動への関心が高まったものと思われます。

そのほか、「①地域福祉活動の認知状況」にも示されているとおり、「見守りや安否確認（29.8%）」「防犯パトロールや登下校のパトロール（25.4%）」「ちょっとした家事支援（23.5%）」が、関心が高い活動となっています。

（設問） 今後、どのような地域活動に参加したいですか（複数回答可）。  
 ※対象：「②地域福祉活動の参加状況で「ある」「ない（機会があったら参加したい）」と答えた人。



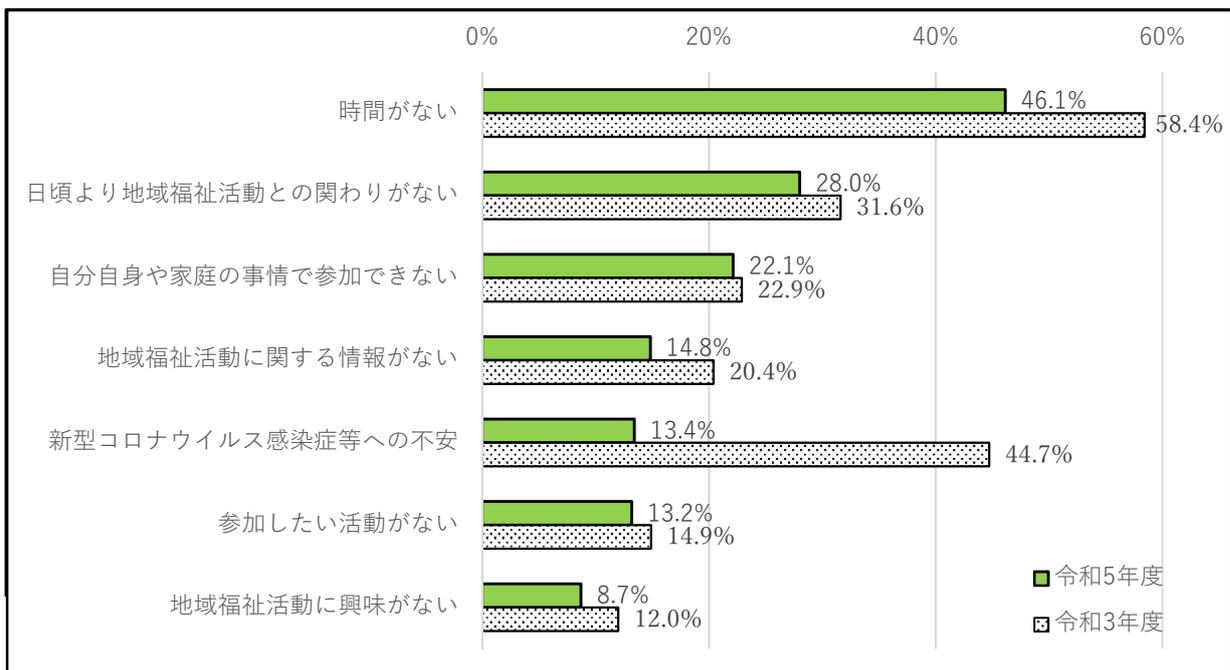
④ 地域福祉活動に参加したくない理由

地域福祉活動に参加したくない理由は、「時間がない」と答えた人が最も多く、割合は46.1%でした。その他、「日頃より地域福祉活動との関わりがない(28.0%)」、「自分自身や家庭の事情で参加できない(22.1%)」と答えており、地域福祉活動を行う上で役立つ情報の充実や地域福祉活動に参加しやすい環境づくりが必要であることがわかります。

また、「新型コロナウイルス感染症等への不安」は大幅に減少(44.7%⇒13.4%)しました。

(設問) 地域福祉活動に参加したくない理由は何ですか(2つまで回答可)。

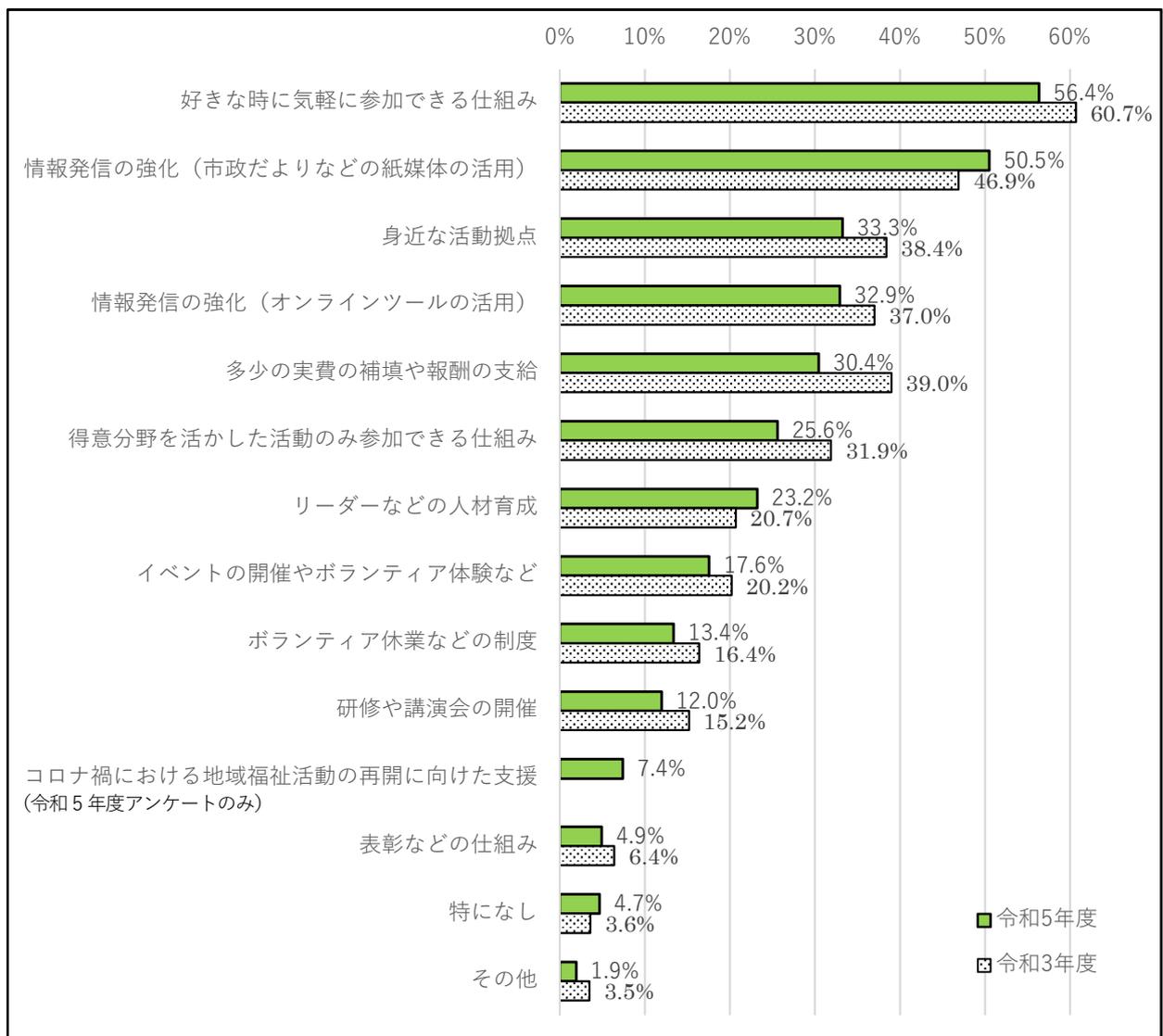
※対象:「②地域福祉活動の参加状況で「ない(参加したくない)」と答えた人。



⑤ 地域福祉活動の参加要件

より多くの人々が地域福祉活動に参加するために必要だと考えているのは、回答割合の高い順に「好きな時に気軽に参加できる仕組み (56.4%)」、「情報発信の強化 (紙媒体の活用) (50.5%)」で、「④地域福祉活動に参加したくない理由」と同様、情報の充実や地参加しやすい環境へのニーズが高いことがわかります。その他、「身近な活動拠点 (33.3%)」や「情報発信の強化 (オンラインツールの活用) (32.9%)」も回答割合が比較的高く、活動拠点の確保やオンライン情報発信の強化により、地域福祉活動の参加者の増加につながる可能性があります。

(設問) より多くの市民が地域福祉活動に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(複数回答可)



## 2 これまでの取組みと今後の課題

### (1) 地域福祉計画の策定・推進の経過 (計画 p.33)

年度 ※和暦	計画	特徴
H18～22 (5年)	第1期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24の地区フォーラムを設置。</li> <li>・「市地域福祉計画策定委員会」、区ごとに「区地域福祉計画策定委員会」を設置。</li> </ul>
H23～26 (4年)	第2期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市計画と区支え合いのまち推進計画の役割分担の整理。</li> <li>・5つの基本テーマを設定。</li> <li>・区支え合いのまち推進計画に重点項目を設定。</li> </ul>
H27～29 (3年)	第3期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9つの取組みテーマを設定し、地域、市、市社協の取組みの関係を整理。</li> <li>・地区部会エリアごとに「重点取組項目」を設定。</li> </ul>
H30～R2 (3年)	第4期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点施策「コミュニティソーシャルワーク機能の強化」を掲げ、「コミュニティソーシャルワーカーの増員等」「多機関の協働による相談支援体制の包括化」「地域力基盤強化の支援」「地域福祉の担い手の育成・拡大」を4つの柱として位置付けた。</li> <li>・各区の好事例を掲載。</li> </ul>
R4～R8 (5年)	第5期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮し、計画策定を1年延期したほか、地域の取組みの一部について柔軟に見直しを図っていくこととした。</li> <li>・地域共生社会の実現を目指し、「地域の支え合いの力を高める」「ひとりぼっちにしない、断らない相談支援体制を構築する」「社会資源の創出を促進する」を3つの取組方針として位置付けた。</li> <li>・成年後見制度利用促進基本計画と一体的に策定。</li> <li>・市民に分かりやすく、浸透する計画とするため、「市の取組みに関するコラム」「コロナ禍で地域福祉活動を継続するために工夫している取組事例」「地域福祉活動に関係する補助制度一覧」を掲載し、併せて「地域福祉を題材としたデジタル漫画」を作成。</li> </ul>